

- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。
- K排水路では、陸側遮水壁との交差部に、凍結による膨張対策として、補強箇所が存在します。
- 当該補強箇所内において、クラックなどが発生し、凍結範囲に水が流出している可能性があるかと推定しております。

<[2021年10月28日](#) お知らせ済み>

- 11月第1週に当該区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施する予定です。
- 目視調査については、11月2日より開始する予定です。

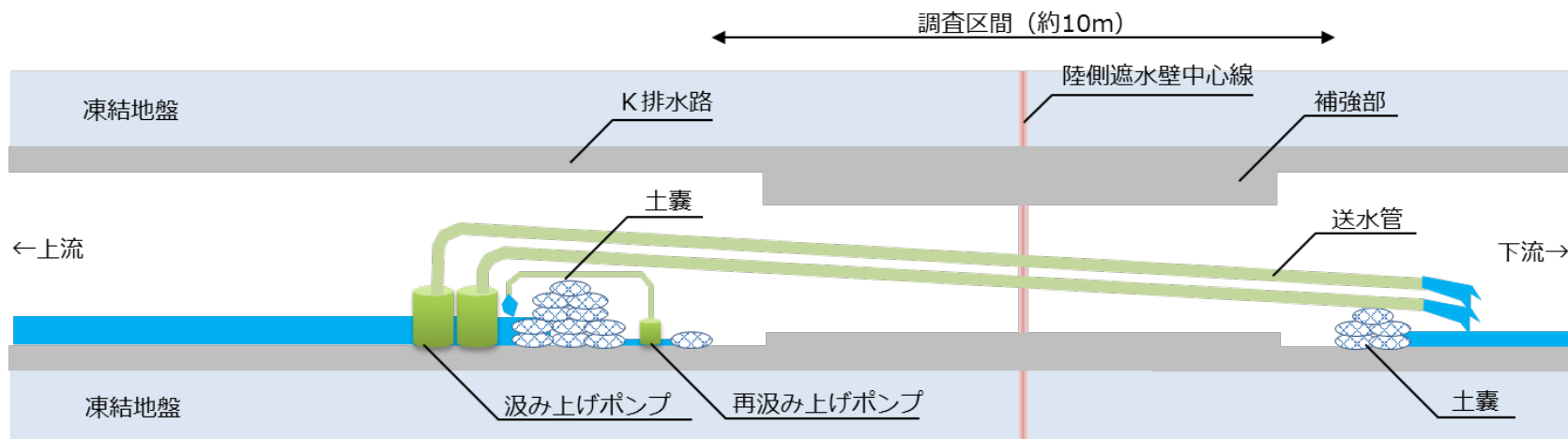


図1 K排水路内部の調査計画概要図

項目	第1週 (補強部約10m)	第2～4週 (温度変化確認期間)	第5週以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライアップ後、目視調査によりクラック等からの水の流出入がないかを確認する。 ・調査期間中の測温管温度に注視し、変化の兆候を捉える。 		
ドライアップ	11月1日		※1：第1～4週の調査結果、測温管温度変化を踏まえ地表部からの調査も含めて追加調査を検討する
目視による詳細調査			
クラック補修			
測温管温度確認			

※2：降雨等により調査期間延長の可能性がある。

図2 K排水路内部の調査計画工程表